

令和 3 年 6 月 21 日現在

機関番号：34503

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17H02419

研究課題名(和文) 画像資料分析による漢代神仙思想の歴史的展開の研究

研究課題名(英文) Study of historical development of Han dynasty Immortal Ideas by iconographic material analysis

研究代表者

森下 章司 (Morishita, Shoji)

大手前大学・総合文化学部・教授

研究者番号：00210162

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 5,800,000円

研究成果の概要(和文)：画像石や銅鏡など漢代の豊富な神仙画像を基本資料として、実地調査に基づき、地域による違いに留意した変遷過程を考古学的な手法で検討した。前漢後期に宮廷で成立した西王母・東王父像という造形資料を媒介として、後漢代に神仙思想は広い階層に普及してゆく。その中で、方位概念に基づく世界の調和の家徴、来世観とのかかわり、不老長寿ほかなど現世的な利益の希求など、漢代のひとびとの願いや信仰と深く結びつき、多様な展開を遂げる。年代・地域性分析を基礎とし、画像の歴史的変遷過程を把握することで、神仙思想が漢代社会で果たした役割を明らかにすることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

地域の違いや年代による変遷の把握を得意とする考古学的な分析を活用して、これまで漢代全体を一括のものとして捉えがちであった神仙思想について、歴史的な変遷過程として新たなモデルを提示したことが本研究の大きな特色である。

後漢後半においては山東、四川など地域ごとに画像の違いが拡大していることを資料に基づいて具体的に示し、それぞれの地域において神仙思想が果たした役割、地域社会との関りの違いを反映するものと考えた。漢代の社会変化と関連をもって発展し、中国の信仰の基礎をなす神仙思想のダイナミックな変遷過程を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：By grasping the historical transition process of iconography based on the analysis of age and regionality, we were able to clarify the role that Immortal Ideas 神仙思想 played in the Han dynasty society. Based on field surveys, we examined the transition process, using archaeological methods, using the abundant Han dynasty iconography such as image stones 画像石 and bronze mirrors as basic materials. Through the modeling materials of the Queen Mother of the West 西王母 and King Father of the East 東王父, which were established in the court in the latter half of the Western Han Dynasty, the Immortal Ideas spread to a wide range of people in the late Han Dynasty. Among them, the symbol of harmony in the world based on the concept of orientation, the relationship with the view of the afterlife, the desire for worldly benefits such as immortality and longevity, etc. are deeply linked to the wishes and beliefs of the Han dynasty, and various developments are achieved.

研究分野：考古学

キーワード：漢代 神仙思想 銅鏡 画像 画像分析 道教

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

神仙思想は漢代の広い階層に浸透し、社会の動向とも深く結びついた信仰として注目されてきた。中国史・思想史など各分野の研究において多くの成果が蓄積されている。資料としては文献に加え、西王母・東王父を中心とする神仙像やその眷属を図像として描いた銅鏡・容器・揺銭樹など各種の器物、画像石・壁画などの墓葬装飾といった考古資料が豊富にあり、文字資料からだけでは窺いにくい当時の神仙世界観の具体像を知る貴重な材料となっている。こうした図像が描かれた考古資料を取り上げ、その特徴を文献と対照して神仙などの名称や役割を同定し、漢代の神仙思想を検討する論考も数多く発表されてきた。とくに林巳奈夫や小南一郎の研究は、各種の資料を用いて、広い視野から神仙思想の姿を実証的かつ多角的に説明した成果として重要である(林 1989『漢代の天神』、小南 1984『中国の神話と物語り』)。

最近の発掘資料の爆発的増加と図像に対するさまざまな研究視角は、そうした神仙思想研究に新たな展開を促す状況にある。一方で、漢代の神仙思想全体を一括のものとして扱う傾向が強いという問題も抱える。地域や年代に即して歴史的展開過程として捉える視点や、漢代社会の中での信仰の位置づけや変遷を論ずる議論は乏しい状況であった。

また従来の研究では、図像同定の参照対象は同時代とその前後の時代の文献が中心であった。しかし漢代に成立した神話・伝説・説話は後世の文献にも断片的な形で残存しており、それらに着目することにより、新たな図像世界も浮び上ってきた(森下 2016「神獸鏡と黄帝・玄女」『古文化談叢』77 ほか)。漢代前後の文献からだけでは読み取れない神仙思想の一面が、図像資料を中心に検討することによって解明されつつある。

従来の研究蓄積を基礎として、豊富な図像資料とその考古学的検討、新たな図像資料を組合せた研究が可能な段階となった。

2. 研究の目的

地域性や年代を明らかにしやすいという考古学的方法の強みを生かし、年代・地域性を考慮した神仙図像の変遷・展開過程を整理する。図像表現のみならず、神仙と組み合う眷属、聖人・聖帝、禽獣像などにも地域的な違いや時期による変化が認められる。これらの変化をみることにより、文献資料も参照しつつ、地域における信仰内容の違いや時期による変遷を踏まえた歴史的展開過程として神仙思想をとらえなおすことが本研究の大きな目標である。それは漢代の地域社会の変動に即した神仙思想の社会的役割の解明にもつながる。

また文献資料が欠落し、曖昧な理解がなされてきた神仙思想から道教への移り変わりについても、そうした変容過程の延長上での理解が可能と考える。後漢代の銅鏡や墓葬装飾に現れる神格や人物のいくつかは道教経典に継承され、その地位や役割が拡大してゆくことを確

認している。上記のような図像の年代の変遷、地域性、地域間の影響関係の理解に立ち、神仙思想から道教の誕生に至る過程についても解明を試みる。

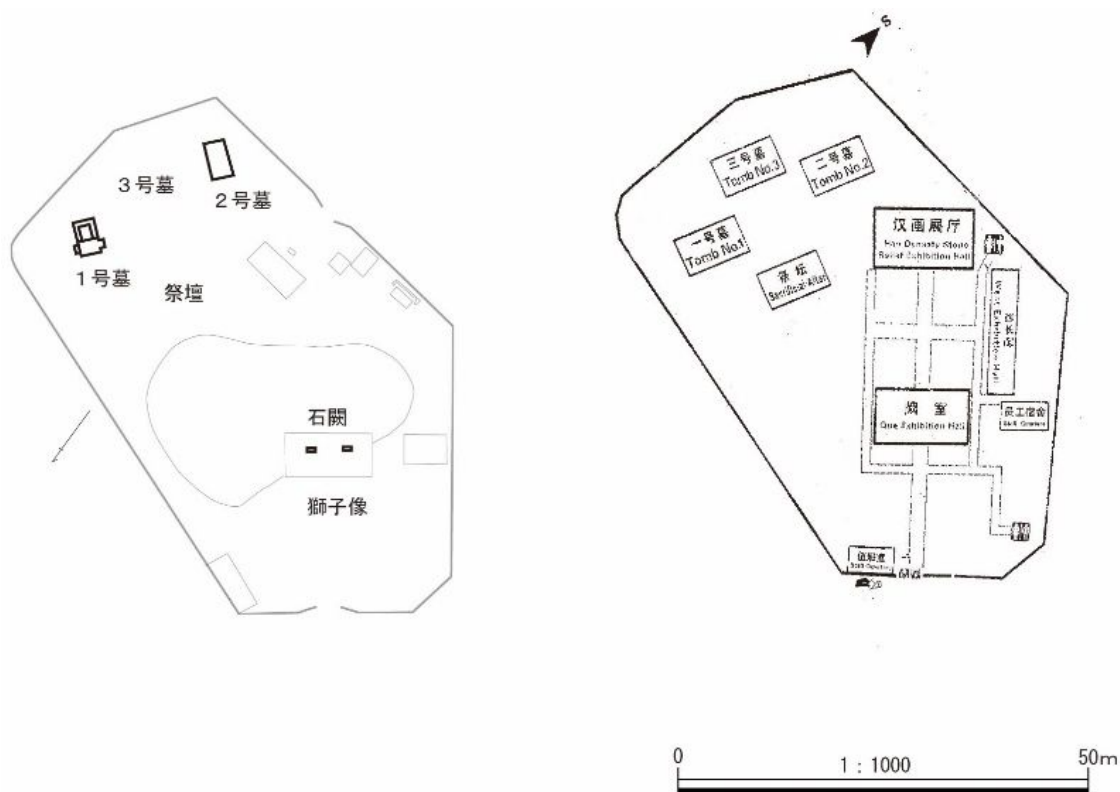
3. 研究の方法

上記の目的を達成するため、実物資料の検討や出土遺跡・文献資料の調査を基礎とし、次のような研究計画を進める。 四川と山東・江蘇の石闕・画像石・石棺・銅鏡など図像資料を実地調査し、細部の観察や墓葬の中での配置・時期資料の検討を実施する。 実物観察資料以外に、報告文献・図録から資料集成を進め、デジタルデータとして整理する。 銅鏡や墓葬などの年代変化を軸に、地域ごとの特色と変化過程を検討し、地域間の影響関係を考慮し、図像からみた神仙世界観の変遷展開を解明する。その上で 漢代の地域社会・文化の中で神仙思想の位置づけについて議論を進め、また 道教経典・考古資料を対比して、道教信仰への継承性を検討する。

4. 研究成果

1) 実地調査にもとづく図像の多角的検討

従来の研究は画像内容に検討が偏り、それが描かれた器物の種類、施設の構造との関りや意義に関する考察が不十分であった。神仙図像が果たした役割について具体的に議論するためには、特に墓葬の中での位置や表現方法の検討が必要と考えた。



墓 域 (『武氏石刻研究図』・武氏墓群石刻博物館案内板)

特に墓葬は構造が複雑であり、実地調査が欠かせないものと考えたが、山東省でつづさに祠堂や墓室、画像石棺の構造と図像との関係を検討することができた。神仙像以外に豊富な画像が描かれた資料として著名な武氏祠墓群画像石について、実地調査と既存の資料を照合し、墓葬全体の復元と祠堂との関係、その中での図像の位置づけを検討した。祖霊祭祀空間における神仙図像のもつ意味を考察した（森下 2020「武氏墓群の構造」『大手前大学史学研究所紀要』14号）。

2) 図像資料のデータ化と地域性・年代整理

山東および四川で実施した現地調査により、多数の漢代神仙図像資料を観察、資料化することができた。また出版物に公表された図像資料の収集にも努め、デジタルデータ化した。図像資料を容易に検索・比較できるようにすることで、基本的な分析を進めるためのデータベースを構築した。

これにより神仙図像について地域性および年代的整理を行った結果、前漢後半に漢の中心地で出現し、陝西・河南から出発して、各地域に図像が普及してゆく過程をモデル化した。

地域性が特に顕著となるのは後漢後半である。山東においては前漢末の画像石棺にみられる少数の神仙像から、後漢後半にかけて小地域ごとに形式や表現の異なる神仙図像が発達する。一方で、西王母・東王父像の配置や図像上の役割に関しては小地域を越えた共通性も認められる。

以前から指摘されているように、四川の墓葬装飾では東王父像が欠落しており、山東ほかとの大きな違いがある。こうした違いについては、各地域で神仙像に求められた役割の違いを反映しているものと考えている。また四川の中での西王母表現の共通性の高さについても今回の研究で明らかにした。図像の共通性が成立した地域社会の仕組みを考察した。

3) 海昏侯墓出土衣鏡の神仙図像位置づけ

もっとも古い年代の西王母・東王父像として江西省海昏侯墓出土の「衣鏡」がもつ資料的意義は大きい。研究期間においてその詳細な報告が公表され、検討対象とすることができた。特に注目されるのは、西王母・東王父像が揃って表されること、四神像の形成とも関連が深いこと、すでに方位の思想と結びついていること、最も古い図像が皇帝一族の所有した器物に表されていることである。これらをまとめて、京都大学人文科学研究所「みえるみえない」研究班研究会において、「漢代神仙思想と像の崇拜」と題して報告（2020/9/19）した。

4) 神仙思想と地域社会との関わり

以上のような実地調査、データ収集と考古学的な検討、新資料の検討を基礎として、本研究でめざした、単なる図像の変化でなく、表現された器物や施設と地域・年代に即した「歴史の変遷」として神仙図像の流れを明らかにすることができた。四川地域に関しては各種器

物や施設に神仙図像が表され、その表現の共通性も高いという特性を活用し、それらが地域信仰の特質と深く結びついて盛行した可能性を考えた。

これらの研究成果を踏まえた論文を作成中である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 森下章司	4. 巻 第14号
2. 論文標題 武氏墓群の構造	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 大手前大学史学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森下章司	4. 巻 237
2. 論文標題 東アジア世界と銅鏡	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アジア遊学	6. 最初と最後の頁 13-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森下章司	4. 巻 別冊26
2. 論文標題 三角縁神獣鏡の授受と地域	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 季刊考古学	6. 最初と最後の頁 77-85
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森下章司	4. 巻 134
2. 論文標題 古墳時代の祭祀と信仰	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 大美和	6. 最初と最後の頁 10 - 18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 黄晓芬・阮文団・会下和宏・木下保明・黎文戦・鶴澤和宏・丁麗玄
2. 発表標題 ベトナム・ルイロウ墳墓群の現状調査とTK.M31・ND.M1の墳丘測量
3. 学会等名 日本考古学協会第85会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 黄晓芬・阮文団・会下和宏・張得戦・木下保明・懷英・丁麗玄・大川純一・周孟権
2. 発表標題 ベトナム交趾郡治・ルイロウ城址第4次発掘調査と海防市大型漢墓の新発見
3. 学会等名 日本考古学協会第84回大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 白石太一郎先生傘寿記念論文集編集委員会	4. 発行年 2019年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 484
3. 書名 古墳と国家形成期の諸問題	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	黄 晓芬 (Huang Xiao-fen) (20330722)	東亜大学・人間科学部・教授 (35503)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------